



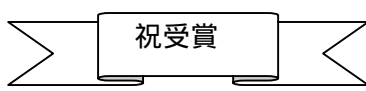
# 社団法人 日本助産師会 宮城県支部だより

第22号

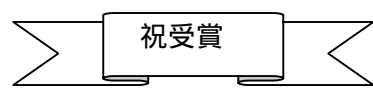
平成21年7月吉日発行  
発行 社団法人日本助産師会宮城県支部  
<http://midwife-miyagi.sakura.ne.jp>  
〒983-0045  
宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目7-48-101

## 目次

- |  |   |
|--|---|
| <p>祝 受賞</p> <p>1. 支部長ご挨拶</p> <p>2. (社)日本助産師会<br/>宮城県支部総会報告</p> <p>3. 産婆時代の助産師たち<br/>鹿島台 伊藤スゲ氏<br/>勤務助産師のつぶやき</p> | <p>4. こんにちは! 助産院さん<br/>多賀城 ナーシング助産院<br/>笠松愛子氏</p> <p>5. お知らせ<br/>本部会館取得寄付金のお願い</p> <p>6. 編集後記</p> |
|--|---|



石川初枝氏  
宮城県支部副支部長  
元栗原中央病院産科師長  
平成21年度(社)日本助産師会会長賞を受賞なさいました。おめでとう御座います。  
2009年6月奈良県全国総会にて



青木喜美代氏  
宮城県支部理事  
元仙台市新生児訪問指導員  
平成21年度(社)日本助産師会功績賞を受賞なさいました。おめでとうございます。  
2009年4月支部総会にて



# 1.新田みつ子宮城県支部長挨拶

## 21 世紀に助産師はどう動くか

平成 21 年度通常総会が、平成 21 年 5 月 28 日から奈良市で開催されました。新型インフルエンザの発症に伴い開催が危ぶまれましたが、無事開催されました。出席者はマスク持参との連絡が入り重々しい雰囲気での開催でしたが、会場は重々しい緊張感はありませんでした。



奈良公園内で東大寺と春日大社に囲まれた能が開催される奈良県新公会堂でした。能舞台での厳かな中での総会でした。総会前夜に三部会が開催されそれぞれの部会の問題が討議されました。

総会においては「助産所業務ガイドライン改訂版」において「助産所における分娩の適応リスト」において G B S の妊婦は産婦人科医が管理すべき対象者になっているが G B S であることが判明するのが妊娠後期になってからである。妊娠期間のほとんどが助産所管理だったのが突然産科医管理になるのはいかなるものかとの議論がなされたが、母子の安全が第一ということから考えて当然産科医管理が妥当であることに落ち着いた。ガイドラインは永久のものでないので常に見直しをし、あくまでも母子の安全を第一に考え対応していくことが基本です。



私たち助産師は何をする人か、「助産師の声明」を熟読し日々の業務に当たることを希望します。会員の皆様におかれましては、ますますの自己研鑽を積み専門職業人として社会に貢献していただきますようお願いいたします。

### お礼

(社)日本助産師会宮城県支部事務所に  
寄付を頂きました。お礼申し上げます。

冷蔵庫 小原京子氏  
金一口 武者文子氏



## 2.平成21年度社団法人日本助産師会宮城県支部総会報告

基調講演 「知っておきたい思春期男児の性と体」

泌尿器科医師の立場から  
講師：泉中央病院院長 光川史郎先生

支部総会

1. 開会のことば 日本助産師会宮城県副支部長 石川初枝
2. 開会挨拶 日本助産師会宮城県支部長 新田みつ子
3. 功労者表彰 青木喜美代 様
- 謝辞 //
4. 物故会員黙禱 大崎地区 我妻ちか子 様 平成21年1月18日
5. 来賓祝辞 社団法人宮城県看護協会会長 上田笑子先生

議長選出

議 事

- (1) 平成20年度事業報告
  - (2) 決算報告
  - (3) 平成21年度事業計画
  - (4) 平成21年度予算
  - (5) 平成21年度役員・理事体制
- 異議なし。会場一致で承認を受けました。

平成21年度総会議長

・伊藤朋子氏 ・加藤由美氏



提案議題

- (1) 宮城県支部事務所の獲得経過報告 支部長
- (2) 本部会館寄付金の回収について 支部長  
宮城県支部として50万円拠出することになる。
- (3) 「OH! サンバサロン」の開設について 支部長  
準備をはじめ。

平成21年度役員一覧(ご承認済)

(社)日本助産師会宮城県支部役員

|         |        |
|---------|--------|
| 支部長     | 新田みつ子  |
| 副支部長    | 石川初枝   |
| 副支部長    | 後藤美子   |
| 書記      | 田村雪子   |
| 会計      | 山岸和子   |
| 教育委員    | 後藤あき子  |
| 勤務部会長   | 高橋純子   |
| 保健指導部会長 | 加藤由美   |
| 助産所部会長  | 小野由起子  |
| 災害対策委員  | 伊藤範子   |
| 安全対策委員  | 伊藤朋子   |
| 会計監査    | 生田目サツ子 |
| 会計監査    | 坂詰昌子   |
| 顧問      | 新田双葉   |

(社)日本助産師会宮城県支部理事

|      |       |
|------|-------|
| 仙台地区 | 青木喜美代 |
| 石巻地区 | 齋藤清子  |
| 大崎地区 | 高橋あや子 |
| 白石地区 | 佐藤貞子  |

みやぎ子育て・女性健康支援センター役員

|      |       |
|------|-------|
| 代表   | 石川初枝  |
| 副代表  | 新田双葉  |
| 事務局長 | 田村雪子  |
| 会計   | 伊藤範子  |
| 会計監査 | 加藤由美  |
| 顧問   | 青木喜美代 |
| 顧問   | 高津真理子 |

1.平成21年度予算

1.日本助産師会 宮城県支部(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

収入の部

(単位 円)

| 科目        | H20 決算額(b) | H21 予算額(a) | 差異(a - b) | 摘要         |
|-----------|------------|------------|-----------|------------|
| 支部会費収入    | 729,500    | 750,000    | 20,500    | 5000円×150人 |
| 研修会資料代収入  | 158,500    | 220,000    | 61,500    |            |
| 胎盤事業収入    | 378,435    | 300,000    | 78,435    |            |
| 雑収入       | 118,674    | 110,000    | 8,674     |            |
| 寄付金       | 310,000    | 0          |           |            |
| 県委託事業収入   | 140,000    | 140,000    |           |            |
| 当期収入小計[A] | 1,835,109  | 1,520,000  | 315,109   |            |
| 前期繰越収支差額  | 1,597,126  | 1,133,806  |           |            |
| 収入合計[B]   | 3,432,235  | 2,653,806  | 778,429   |            |

支出の部

(単位 円)

| 科目           | H20 決算額(b) | H21 予算額(a) | 差異(a - b) | 摘要                                       |
|--------------|------------|------------|-----------|--|
| 全国総会関連費      | 160,000    | 230,000    | 762       | 全国総会派遣費 50000円×3人分<br>支部負担金 10000円       |
| 支部総会開催費      | 60,762     | 150,000    | 51,580    | 支部総会会場費・講師謝礼・資料作成代・弁当代                   |
| 東北ブロック研修会参加費 | 10,000     |            |           | ブロック研修支部負担金 10000円                       |
| 研修会開催費       | 98,420     |            |           | 会場費・講師謝礼・資料代                             |
| 会議費          | 130,080    | 100,000    | 30,080    | 役員会・理事会・看護の日係り交通費                        |
| 会費管理費        | 5,265      | 6,000      | 735       | 本部への払込手数料 会費管理に関わる通信費                    |
| 事務費          | 39,287     | 35,000     | 4,287     | 事務用品費                                    |
| 看護の日参加費      | 4,000      | 0          |           |  |
| 通信費          | 126,189    | 240,000    | 113,811   | 郵送費(総会、研修会、役員会の案内・機関紙など)・電話代 10000円×12ヶ月 |
| 機関紙発行費       | 42,210     | 40,000     | 2,210     | 3回発行 紙・インク代                              |
| 支援センター事業費    | 230,000    | 0          |           |  |
| 関連団体負担金      | 13,210     | 14,000     | 790       | 各女連 性教育協議会                               |
| ホームページ作成関連費  | 247,275    | 0          |           |  |
| ホームページ維持管理費  |            | 50,000     | 50,000    | サーバー管理費(年間 24000円)・会報PDF化                |
| 慶弔費          | 14,800     | 10,000     | 4,800     |  |
| 雑費           | 32,250     | 5,000      | 27,250    |  |
| 予備費          | 38,535     | 5,000      | 33,535    |  |
| 県委託事業費       | 224,940    | 140,000    |           |  |

|                     |           |           |         |  |
|---------------------|-----------|-----------|---------|--|
| 事務所経費               | 321,206   | 600,000   | 278,794 | 家賃 40000 円×12 ヶ月<br>光熱水費 10000 円×12 ヶ月 |
| 本部会館建設寄付金           | 500,000   | 0         |         |  |
| 当期支出合計[C]           | 2,298,429 | 1,625,000 | 673,429 |  |
| 当期収支差額[A]-[C]       | 463,320   | 105,000   |         |  |
| 次期繰越収支差額<br>[B]-[C] | 1,133,806 | 1,028,806 |         |  |
|                     |           |           |         |  |

## 2. みやぎ子育て・女性健康支援センター予算

| 区分 | 項目             | H21 予算額 | 20 年度決算額 | 増減     | 備考  |
|----|----------------|---------|----------|--------|---|
| 収入 | 助成金 助産師会本部     | 100,000 | 100,000  | 0      |   |
|    | 助成金 宮城県支部      | 0       | 230,000  | 0      |   |
|    | 事業収入           | 185,000 | 129,600  | 47,600 | マタニティスクール<br>90,000<br>講演事務手数料<br>80,000<br>育児教室参加費<br>15,000 |
|    | 寄付金            | 30,000  | 226,682  |        |   |
|    | 雑収入            | 0       | 4,755    |        |   |
|    | 繰越             | 59,481  | 6,525    |        |   |
|    | 仙台市男女共同参画財団助成金 | 0       | 85,000   |        |   |
| 合計 |                | 374,481 | 782,562  |        |   |

| 区分 | 項目          | H21 予算額 | H20 予算額 | 増減      | 備考                      |
|----|-------------|---------|---------|---------|-------------------------|
| 支出 | 維持費(事務ブース代) | 0       | 216,000 |         |                         |
|    | 通信費         | 0       | 120,000 | 120,000 |                         |
|    | 事業費         | 30,000  | 10,000  | 20,000  | ばいばい講演会謝金<br>10,000×3 回 |
|    | 郵送費         | 10,000  | 10,000  | 0       |                         |
|    | 事務費         | 20,000  | 20,000  | 0       |                         |
|    | スタッフ交通費     | 250,000 | 250,000 | 0       |                         |
|    | 事務所移転費用     | 0       | 50,000  | 50,000  |                         |
|    | 雑費          | 14,481  | 8,525   | 5,956   |                         |
|    | 予備費         | 50,000  | 9,000   | 45,000  |                         |
|    |             | 374,481 | 693,525 | 319,044 |                         |

各事業計画につきましては、資料がございますので、お申し出下さい。

### 3.産婆時代の助産師たち

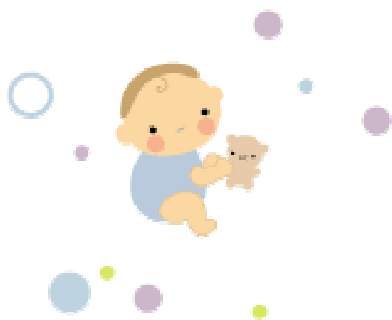
#### 「私は生涯産婆です」

鹿島台 伊藤スゲ氏



月日の流れは速く、大正6年7月15日生まれ、現在92歳になりました。

昭和7年3月鹿島台村立小学校を卒業と共に、山形県、今の村山市の親戚に、内科医師で妻が産婆開業している人がいまして、母に連れられ、奉公に行きました。私の仕事は医師の診察補助と家事見習いでした。昭和9年4月には、山形県立病院済生館産婆養成所に入學し、昭和10年3月に卒業しました。そして同年5月に山形県産婆試験に合格しました。その後出産がある度実地見習い生となりました。恩師である産婆も神佛のご加護なのか、技術優秀なのか、産婦の異常もなく、母子とも健全に実地習得しました。



昭和15年4月鹿島台村の実家で開業しました。当時の生活環境、土地の習慣等で大分考えさせられました。

分娩介助の依頼を受けたものの、妊婦健診を1回も受けていないのです。分娩開始しました。義母は驚くなかれ、畳一帖をはがし、そこにわら束をひき、敷布をその上に敷き、産婦を寝かせるのです。安産でした。出産後3日目、腰湯と言って、たらいにお湯を入れ、クレゾールをたらし、産婦はたらいに入り、陰部を1人で洗うのでした。食事はお粥と焼き塩が1週間続きます。年の若さもあり、どっちが産婆なのか疑問を感じながら、土地の習慣に従いました。何とかして、土地の不衛生な習慣を改善、打破しなければならぬと日夜悩みました。

昭和16年4月、鹿島台村産業組合で国民健康保険組合を設立することになり、私は保健師として採用されました。同年12月には宮城県保健師試験に合格しました。仕事の第1が人口動態調査でした。乳児死亡の原因は先天的虚弱でした。私は母子保健の重大さを感じ、母子保健関係の生活改善をすることに心がけました。

1人では出来ませんが、村産業組合長、村長、保健事務長、各地区婦人会長、開業産婆、各地のとなり組長の方々との話し合いを持ち、誰ひとり反対する人もなく、協力してくれました。各地区婦人会長さんには、保健班長になってもらい、地区に妊産婦、新生児を発見したら、保健師に連絡してもらうことも約束し、よく協力してくれました。連絡があると、保健師、開業助産師が交代で訪問指導にあたりました。開業助産師さんたちには、改善内容をよく話し合いました。物品も不足していた配給時代です。混合栄養児への砂糖の配給は、医師、保健師の証明書がなければ手に入りませんでした。混合栄養児の成長にこの制度は役にたちました。

開業助産師がないときは、分娩介助もしました。わらの上での出産、出産3日目の褥婦の腰湯を禁止しました。バランスのよい栄養の



取り方、休養の取り方等の生活改善を村民とともに実施しました。この活動は、いい評価ばかりではなく、一部の方からは叱られ、憎まれもしました。開業助産師としては、中々難しかったと思いますが、開業助産師の精神と、保健師の仕事の責任を感じ、改善出来たものと自負しております。

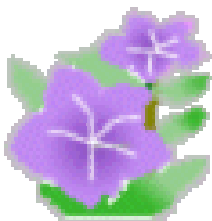
昭和19年9月結婚のため退職し、渡満することになりました。夫は北満国境黒河特務機関に勤務でした。国境には日本人産婆がいまませんでした。昭和20年1月、隊長の夫人が予定日近いということで、分娩介助を依頼されました。手伝いは、ロシア人でした。1月5日母児とも無事、安産でした。異国での分娩介助に緊張しましたね。ご家族からは、日本人産婆から取り上げて頂いたと、大変喜ばれました。ロシア人の手伝いさんでは、食事から違うので、1週間泊って、介護しました。

夫は、20年3月、満州国赤峰、外蒙古の国境に移動になり、憲兵隊の宿舎に落ち着きました。ここにもやはり、日本人産婆はいませんでした。ここでは、憲兵隊長のご夫人が妊娠中でした。3人目のご出産の介助を依頼されました。20年7月25日、母児とも異常なし。

「私は機関長、憲兵隊長夫人の出産のために、渡満したようなものですね」と、大笑いしたことがありました。

昭和20年8月10日、突然の非難命令です。ほとんどの人が着の身着のまま、隊長夫人は2週間の赤ちゃんを抱き、上の子3歳児の手を引き、官舎家族一同と共に汽車で、綿県まで非難しました。綿県の駅は大変混雑し、召集兵などが、「万歳、万歳！！」と言いながら、発車しました。私たちは、隊長の支持により、引き上げるまで、綿県の官舎に住みました。

隊長以下の兵は、一定の場所に集合との命で、我が夫とも別れ別れになりました。そして8月15日終戦を迎えました。私が割り当てられた官舎は軍医さんが住んでいたところでした。軍医さんたちは、荷物をそっくりそのまま置いて、どこかに非難したのです。聴診器、はさみ、コッヘル、薬品など、いつか役立つだろうと思い、ひとまとめにして持参しました。



終戦後、ラジオから流れる言葉、『午後7時から午前5時まで外出禁止』『見つかった者は銃殺します』との内容でした。産婆は、私の他に広島出身の人がいるとのことでした。12月になり、夜8時に陣痛がはじまったと、私のことを迎えるにきました。『銃殺』という言葉が頭をかすめました。産婆の使命感が私を駆り立てました。幸いにも監視員に見つからず、産婦宅に行きました。到着し、異常もなく出産しました。あのときの心境、喜びと安堵感は忘れることが出来ません。朝になり帰

出典: フリー百科事典

## 『ウィキペディア (Wikipedia)』 より

日本で満洲と呼ばれる地域は、[満州国](#)の建てられた地域全体を意識することが多く、おおよそ、[中華人民共和国](#)の「[東北部](#)」と呼ばれる、現在の[遼寧省](#)、[吉林省](#)、[黒竜江省](#)の3省と、[内モンゴル自治区](#)の東部を範囲とする。

この地域は、北と東は[アムール川](#) (黒竜江)、[ウスリー川](#)を隔てて[ロシア](#)の東[シベリア](#)地方に接し、南は[鴨緑江](#)を隔てて[朝鮮半島](#)と接し、西は[大興安嶺山脈](#)を隔てて[モンゴル高原](#) ([内モンゴル自治区](#))と接している。南西では[万里の長城](#)の東端にあたる[山海関](#)が、[華北](#)との間を隔てている。

広義の満洲としては、[モンゴル民族](#)の居住地域であるが満洲国に属していた[内モンゴル自治区](#)の東部、「東四盟」と呼ばれる[赤峰市](#) (旧ジョウウダ盟)、[通遼市](#) (旧ジェリム盟)、[ホロンバイル市](#) (旧ホロンバイル盟)、[興安盟](#)が含まれることが多い。

また、外興安嶺 ([スタノヴォイ山脈](#))以南・黒竜江以北・ウスリー川以東のロシア領の地域を[外満洲](#)と呼び、場合によってはこの地域をも含むことがある。外満洲は満洲と同様に、[ネルチンスク条約](#) (1689年)で清朝領とされたが、その後の[アイグン条約](#) (1858年)・[北京条約](#) (1860年)で締結した[不平等条約](#)によりロシアに割譲された。外満洲を含めた面積は、約1,550,000km<sup>2</sup>に及ぶ。

る途中、死体があっちにごろり、こっちにごろり、ときには犬が引きずりまわしていました。

20年5月までに5人取り上げました。異常無しです。

昭和21年5月20日第1回の引き上げが開始、綿県より列車で葫蘆(コロ)島港までから、持ち物金1,000円まで、着の身着のまま、私は産婆道具一式を持ち、隊長の3歳の子どもの手を引き、引き上げるようになりました。

舞鶴港に到着しました。異国での産婆の仕事が終わりました。私は反省しました。恩師より指導を受けた産婆技術でしたが、私は結婚したら、産婆をやめようと密かに思っていたのです。異国での命がけの産婆仕事、私の技術が役に立って「有難うございます」

と、恩師に対し涙ながらに感謝し双手を合わせておがみしました。

昭和21年5月27日午前9時鹿島台に、第1回の引き上げ者が到着。あまたの方が集まってくれました。組合長さんはじめ産婆さん。

「伊藤さん、ご苦労さんでした。元気になったら、又産婆さんしてね」とお声も聞こえました。

私は言葉少なく「有難う」と発するのが精一杯でした。ただ涙、涙でした。

実家に帰りました。私の帰る時間がわからなかったので、母は、私の身を案じ、山寺に祈願に行ったとのことで、父と妹2人がいました。

「姉ちゃん、姉ちゃん」と抱き合っ泣くばかりでした。

夫と弟2人は、軍人で、帰りませんでした。夫は、昭和22年11月に帰ってきました。弟も無事に帰ってきました。

昭和22年4月保健師として再就職し、産婆の仕事も多くなりました。開業産婆には申し訳なく、なぜかという、保健師の立場で取り上げたのは無料なのですから。

昭和23年3月保健師を退職し、産婆専門にすることにして、古自転車を買いました。村内は、疎開者、復員者、ことに満州からの引揚の人々が居住しておりました。また朝鮮人も多く居住しておりました。

村民は私のことを忘れず、私のつたない産婆技術を利用してくれました。



現在の葫蘆(コロ)島港



職の不足、食料の不足の時代でしたが、生活環境が変わり、殊に衛生知識が向上していました。しかし、一部では毎年水害の被害にあっている家族、開墾入植者の方々には、現金収入もありません。機械等もちろんなく、鍬で山を掘り、畑作りの作業です。電気もなく、ランプでした。朝鮮人、開墾に入植した人の分娩介助はほとんど私でした。介助料など満足にもらえる人はいません。甚だしい場合、腰巻、衣類、新生児用品を持参することも珍しくありませんでした。私は満州、殊に終戦後の出産はすべて無料でしたから、どこから持ってきた技術でもなし、現金なし、もらわないことは普通でした。怒りもありませんでした。私も引揚者で裸同然経験者ですから、戦争の犠牲者のような生き様でした。

私の自宅分娩介助者は、昭和42年で終了しました。3,002人です。よく異常がなかったと今思えば不思議です。新生児に奇形があったことはありましたが、医療は専門医にお願いしました。母体に異常がなかったことは、神仏のご加護、また、夫、家族の協力があつたからでした。野を超え、山を越え、日夜問わず愛車と共に、産婆業は楽ではありませんでしたが、村内くまなく歩き、いろいろな社会学を学びました。今人生を振り返れば、産婆になって、助け助けられて、最高の人生と感謝しております。

皆努力しました。現在は広々とした田園、野菜畑です。緑の中に白い壁、赤い屋根が見え、皆努力したなと嬉しく眺めております。「産婆さんお世話になったなあ」時々手作り野菜を持参し、家に招待されます。



産婆を開業して、一番困ったことは、3人いる子どもの養護教育でした。ペダルを踏みながら、職業婦人、核家族のための、安全、安心な施設があつたらと、思っていました。土地が、金があつたらという思いが離れませんでした。

昭和29年はじめて私立幼稚園が設置されましたが、私はつねづね、すべての児童が貧を問わず、平等に幼児教育を受けることができる施設があればよいと考えていました。



昭和29年12月、自宅の前の裁縫学校を移転のため譲りたいとお話を頂きました。金もないのに、この裁縫学校を買って、児童施設を作りたいという夢で、全身躍動しました。

地主さんは、裁縫学校の校長を依頼されており、中々承知してくれませんでした。児童施設の必要性、希望を、懇切丁寧に話しました。

「私の土地に、社会に役に立つ施設が建つのだったら、買ってやりなさい」

と、承認のお言葉を頂きました。

昭和30年1月より、保育所開設の手続きに入りました。村長、福祉事務所、村会議員、地主、産婆、民生委員、婦人会長さんなどの主なる人と相談、協力を求めました。幸いにも1人の反対者もなく、承認してくれました。同年4月に、季節保育所『稲の本』として開設しました。60人定員、保育士2人、調理師1人、従務員が規定でした。私は産婆も恋しいので、所長になるつもりはありませんでしたが、周囲に押されて重い任を引き受けました。

昭和31年12月1日厚生省認可保育所となり、『社会福祉法人愛心会鹿島台保育所』と改名し、今年で53年目です。私は25年所長を務め、現在息子が継続しています。20年前からは、学童保育も始めており、これもまた大切な仕事です。職業婦人のための延長保育も必要になってきました。私は常務理事として、保護者の話相手、子どもたちの遊び相手として生活しています。安全、安心な保育に心がけています。

私の心は何時も産婆です。

平成21年6月吉日

### 三 特別寄稿 勤務助産師のつぶやき

ローラースケートを履いて病棟の廊下を歩きたい気分は、7対1看護の導入により、少し落ち着いてきた。看護スタッフ増員は、長年の日本の看護師の望みだった。日本看護協会の力もついてきた。しかし、OECD30カ国の急性期と慢性期の平均比率は1:1(実質5対1)看護であり、日本がいかに遅れているか、それでも先進国の仲間入りをしている不思議!お産は7対1看護では成り立たない。1対1、いや産まれるときは1対2看護である。出産に向かう十数時間、1人で過ごしたい人はいない。助産師がそばにいてこそ(mid-wife)安心し、人生の一大イベントが素晴らしい思い出となっていく。

勤務助産師は疲弊している。7対1で計算されても全く不足しているのが現実である。病院管理者は配置したつもりでいる。平成16年から日本看護協会でも助産師外来の導入に力を入れ、平成21年度の重点事業の1つとして「安心安全な出産環境の実現に向けた院内助産システムの推進」と掲げられている。日本看護協会の助産師職能が、ではない!天下の「日本看護協会」が重点事業として掲げていることを、全国の助産師には認識してほしい。宮城県では院内助産どころか助産師外来での妊婦健診さえ数カ所しか実施できていない。助産師は頑張っているのに。協働に関する問題は大きい。

看護必要度が世に出て全国的に評価がなされ、スタッフ配置検討の材料にされている。しかし、助産必要度はない。日本看護協会助産師職能委員会でも今年度、やっと「助産師必要度に関する検討」がなされることになったことは喜ばしい。法的に正常新生児は7対1看護の対象であるが、稼働率には反映しない。反映している病院はかなり少ないと思う。病院の増収目的で稼働率上昇にのみ奔走する管理者たち。産科には24時間産科救急が殺到する。緊急帝王切開術も24時間、時間を選ばない。保健指導に費やす時間も多いが、産後鬱予防には欠かせない。無料で行われる保健指導や母親学級・両親学級・妊婦ヨガ等々、助産師は金にならないことばかりをする、と言われても、産科医が少ない中、精神支援等しながら病院の評判を良くし、私費分娩数を増加させ増収に貢献している助産師の力は見えにくい(データを提示しても)。助産師外来の開設も院内助産も「いま1歩」が進まない。人がたりない!



5月12日看護の日記念イベントに参加しました。ベビースリング、赤ちゃん抱っこ、妊娠体験、ベビーマッサージ、そして写真撮影です。多くの方が体験して下さいました。進路に看護学校を考え中の高校生も多く立ち寄りました。

## 4. こんにちは! 助産院さん

### 開業して 21 年を振り返って

多賀城市 ナーシング助産院 笠松愛子

多賀城市東田中 1-15-5 022-368-1860

お蔭様にて今年、開業 21 年目を迎えることが出来ました。

これも一重に皆様のおかげと感謝申し上げます。

開業する前の年数と開業後の年数とでは、開業の方が長くなりました。

開業当初は、開業、休業みたいな状態でしたが、少しずつ仕事が入るようになったのは、開業してから 3 年目ぐらいからでした。

この 3 年間は私にとって修行時代だったなと思っております。大事な時代でした。

当時、今は亡き母が、「待つことも仕事のうち。一人を大切にすることは、その後ろに 30 人がいることを思って仕事をしなさい」と良く言っておりました。その言葉を今も大切に胸に刻んでおります。

修行時代、焦らずに過ごすことができたのも母のおかげと感謝しています。

今、インターネットの時代でもありますが、原点はやっぱり口コミと思っています。

数年前より、日々のことを自分日記と思ってブログに書くようになりました。しかし、教えてもらいつつもなかなか覚えられません。でもブログを見ましたよと言う声に、また何か書こうかなという気持ちにもなります。結構楽しいですので、長続きをしています。

現在私は、母乳育児相談を中心に仕事をしておりますが、開業当初は、産褥入院と母乳育児相談。その後お産も扱いましたが、忙しくなりかけたところで、また当初の産褥入院と母乳育児相談にもどりました。

その後、母乳育児相談を中心とするために仙台の市立病院近くに 2 ヶ所開業をしました。しかし、転んで腕の骨折をして入院。ちょっと 2 ヶ所開業はハードだったのかなと思い、自宅でもある多賀城の助産院で、現在は仕事をしております。

母乳育児相談のサポートですので、初診は約 1 時間。再診は 45 分位かけて、ゆっくりと相談に応じております。状況によってはもっと時間がかかることもありますが、完全予約制にしておりますので、なるべく待たせないようにと心がけながら仕事をしております。



この 21 年間仕事の内容もいろいろ変遷をしながら歩んできましたので、日々飽きることもありませんでした。

今年は、新型インフルエンザに注意しながら、電話での対応をしなければなりません。

乳腺炎の初期症状は風邪に似た症状がでますので、その点を注意しなければと思います。

また、初診時には、乳癌検診の有無と検診日を確認しています。

乳癌検診に行った事の無い方は、必ず

行くようお話しています。時には紹介状を書いてお願いしています。

今年の5月12日に、思いもかけずに宮城県知事より看護功労賞を頂きました。

日本看護協会宮城県支部から推薦を頂いたときは、「何で私が？」と驚きと、戸惑いで一杯でした。「地域の中で地道に仕事をしている」ということに評価をしていただきました。

地域の開業助産師に目を向けて下さったことに感謝し、有難くこの賞を頂きました。

当日、12名を代表して謝辞を述べたときは、かなりカチコチになっておりました。

久しぶりにこの緊張感を味わいながら、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

今年は私にとって還暦を迎えた年でもあり、一生涯忘れることのできない思い出のある年となりました。

仕事も大好きですが、旅行も同じ位好きです。

7月には、看護学校卒業以来初めてのクラス会を行います。約40年ぶりです。

3年間の寮生活をともにした仲間たちに逢える日を首を長くして待っているところです。

秋には、日赤の助産師学校のクラス会をハワイで行います。還暦祝いを兼ねての旅行なので、思い出に残る旅行になるかなと今から楽しみにしています。

旧交を深めつつ、日々新しい出会いを大切に、これからも長く仕事ができれば幸せだなと思っております。

今後とも何卒宜しくご指導のほどお願い申し上げます。



## 本部会館取得寄付金のお願い

宮城県支部長 新田みつ子

宮城県支部の運営につきましては、日頃からご支援頂き、感謝致しております。

さて、本部会館寄付金につきまして、支部総会で承認を得、宮城県支部として、50万円寄付金として、届けました。

が、3年計画会員全納の計画で会館を取得したと、本部から再々の寄付金要請の依頼が届いております。

会員数 126人(平成17年度会員数) × 3万円 = 3,780,000円

宮城県支部の入金状況は、44%の1,689,000円です。

他県は、すでに全納されています。

また、支部として支出した50万円の寄付金も回収したい方向に考えております。宮城県支部の財産を立替している状態です。個々の会員の御協力、ご支援をお願い致します。

今回は、全会員さんに、振替用紙を同封させて頂きました。ご確認の上、よろしく願い致します。3万円以上のご寄付も大歓迎です。

日本の助産師活動の拠点となる施設の確保のためです。今助産師にとって飛翔の年、ですが、厳しい時代でもあります。会員が協力し、足元を強固にしたいと考えます。

7月末日予定で、よろしくお振込み下さい。同封の振替用紙で御協力をお願い致します。

## 編集後記

新事務所での役員会は、狭いながら居心地がよく話し合いもスムーズに終えています。この機関紙も新事務所で作成しNPOプラザで印刷しました。思春期こうえん学習会もすすめております。ただいま看板制作も進めております。会員の皆様にはどうぞお立ち寄り下さい。

